

野洲市吉川の

昭和28年台風13号の水害体験

■昭和8年生まれの男性が覚えている吉川の水害

- ・明治29年；琵琶湖の水位が上昇し、堤防に避難。湖岸の田畑に被害
- ・昭和19年8月15日；避難命令が出て、お寺に避難。田畑に被害
- ・昭和28年13号台風；田畑に被害、多数の田畑が流失
- ・昭和30年、33年の台風；特に被害はなし

■流木

- ・家や材木が流れて来た。
- ・その木で家を建てた人もいる。

野洲川堤防の決壊箇所

■水害への備え

- ・子どもとお年よりは、握り飯と服を持って、先にお寺に避難する。
- ・橋に引っかかっているものを、取り除く。

■注意する場所

- ・消防団は、湖岸と堤防と川の様子を見る。危ないときは、逃げる。

■吉川の被害

- ・堤防は切れないが、湖岸から水が上がってくる。
- ・s28の水害では、田は全滅。しかし、集落に水は浸からなかった。
- ・水が入ると田の収量は、5俵から3俵

■屏風だて

- ・水が一気に来た。水がないところに、急に水が来た。
- ・堤防の竹やぶにいた老人が、屏風のように同じ高さの波が、一気に流れて来たのを見た。

■この男性の見た水害

- ・車で中主（当時）の農協から、守山駅の方に水防道具を取りに行った帰り、大八車やリヤカーで荷物や牛を避難させているのを見た。
- ・旭化成の工場のあたりで、「でーん」と音がして、水が流れて来た。
- ・水は渦を巻いていた。急に水が引くと、川底がすり鉢のように、削られていた。
- ・竹やぶの深みなどに魚が残っていた。

昭和20年代の地図

琵琶湖河川事務所 <http://www.webgis.biwakokasen.go.jp/axbiwako/map.asp?x=-8095&y=-117720&r=13000&l=1&t=BS>